

第 29 回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：内閣総理大臣賞（高学年の部）

タイトル：感謝の気持ちを伝えたい

氏名：大木 梨愛（オオキ リア）

小学校名：長崎県 長崎市立日見小学校 五年

数年前のこと、私は母と車で出かけていました。とある交差点を左折すると、その付近に大きなトラックが停車していました。向かい側のスーパーに荷物を運んでいるらしく、ドライバーは乗っていません。

ここはせまい道路で、大きな車が停まると、対向車が来ているか全く見えないのです。ふと後ろを見ると、おじさんがクラクションを何回も鳴らし、明らかにイライラしている様子でした。しかしそのクラクションは、私達に対して鳴らしていたのです。「早く追い越せ」と身ぶりで指図し、かなりいら立っています。私は、とても怖くなりました。となりにはいた妹は、泣き出しました。母を見ると、ハンドルを強く握り、顔がこわばって焦っている様子でした。しかし、対向車が次々と来るため、追い越したくてもできない状況だったのです。

そんな時でした。偶然、一台のパトカーが通りかかったのです。警察官は、すぐに異変に気づき、「トラックの方、すぐに車を移動してください。」とアナウンスしてくれました。しかし、ドライバーは気付かないのか戻って来ません。もう一度アナウンスすると、戻って来て車を移動しました。警察官は、直接、ドライバーに注意を促しているようでした。

私は、思わず警察官に目を向け会釈をすると、ニッコリ笑って会釈を返してくれました。その笑顔に、私は安心して涙があふれました。きっと、その警察官の方にとっては、ほんのささいな出来事だったでしょう。しかし、私達親子にとっては、数分が長い時間を感じられる程、恐ろしい出来事でした。こんな小さな異変にも素早く気づき、誠意を持って対応してくれた警察官の方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

警察官とは、本当に大変な仕事です。いつでも私達の安全のため、見守ってくれているのです。時には、命に関わる危険なこともあります。それでも、私達のために、日々必死に頑張ってくれています。

現在、あの交差点付近に、トラックは停まることがなくなりました。当時、警察官が注意してくれたおかげです。私は、この場所を通る度、あの日の出来事を思い出します。直接お礼を言えなかった、あの警察官の方に、今ここでお礼を言いたいです。

「あの時は、本当にありがとうございました。私達は、あなたのおかげで救われました。私もあなたのような、誠実で温かい人になりたいです。」……と。